
ヒロイックファンタジー

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒロイツクファンタジー

【Nコード】

N4047T

【作者名】

まめ太

【あらすじ】

いや、なんか今ファンタジーが流行ってるよーな気がしたし、コミカルタッチが受けてるみたいだし、おにゃのことがハーレムじゃないとダメみたいだし・・・ごめん、出来心です。

1 白馬に乗った王子様？

わらわは今年で16歳になった。

晴れてどこぞの王子を引つ掛け・もとい、運命の出会いとやらを期待するところじゃが、国の事情がそれを許さぬでな。すでに隣国の王子に目星は付けられておった。うむ、出来た官僚どもじゃ。褒めてとらす。

わが国の将来を見据えた諸国との外交上、特に隣国との関係強化は必須じゃ。

それゆえに、わらわは隣国の王子と親密になるべくこの二年を費やしてきたのじゃ。

・・・で、あるのに。

「すまない、アンジェリカ。僕は自身の本当の気持ちに気付いてしまった。」

な、なんですと!?

それはもしや、いわゆる一つの婚約破棄宣言!?

「な、なぜなのじゃ、わらわは納得が行かぬ！なぜ、なにゆえに!?!」

結婚など、お国の事情以外必要ないではないか!

いや、それより今までに掛かった外交費用をどうしてくれるのじゃ!莫大に掛かった交際費は補償してくれるのじゃろうな!?

それより何より国民につるし上げられてしまつではないか!?!

「その理由を!?!」

「理由・・・それは・・・」

他に女でも出来たかや?

別にわらわは構わんぞ、山のよーに側室こさえよーが、別に気にするつもりはない。

なにせ結婚は外交手段じゃ。跡取りさえ生まれればそれでよい。考えなおすのじゃ、王子であろう、割りきりが肝心じゃ！

「ママンさー！」

「……………へ？」

「そう、ママン！ 僕の理想、僕の真実求めるただ一人の女性、ママンを越えるほどに聡明で清楚で美しく優しく理智の輝きに満ちた女性など居はしないと気付いたのだ！」

「……………。」

「だからごめん、アンジェリカ。」

決して君がママンに遠く及ばないとか、そんな事は問題にしてはいないのだよ？

僕は、きつと、誰も愛することが出来ないのだと思う。……ママン以外は。」

「……………。」

「ああ、なんとという罪。ママン、あなたが悪いのです、あなたがあまりに最高に過ぎる女性であるから！」

「……………。」

「……さらばだ、アンジェリカ姫。」

幸せになってくれたまえ。そして、決して結ばれることなき運命に弄ばれる、不幸な僕など早く忘れ去ってくれたまえ。」

キラリと涙が光りおった。

この男、マジで言うておるのか。

王子は言うだけ言うて、わらわを残して帰って行ったのじゃ。

わらわを独りつきり、その場に残して。

振り返りもせず。

「……………。」

「……………。」

「……………。」

「……………」

あの、マザロンが~~~~~!!!!!!

一瞬噴火しかけたが、なにやらしょぼく収まってしまいおったわ。
考えようによつては、あんな阿呆を掴まずに済んだのだから僥倖よ。
いったい誰じゃ、あんなのを選考した馬鹿官僚は。処分してくれる。

吐き気をもよおすほどの怒りを胸に、わらわは眠りについたのでのじゃ。
その夜のことじゃ。

夢の中で・・・神々しい光に包まれて・・・これは、夢かや？

2 チート武器ゲット？

夢の中は殺風景に真つ白な世界が広がってあった。
なんじゃ、手抜きもいいところじゃの。

手抜きではありません

びっくりした！

な、な、な、なんじゃ、いきなり！ びっくりするではないか！
いきなり頭上から声が降ってきおった、
しかも360度見回してみたが、姿が見えぬときたわ、無礼千万め！

無礼はお前です。そして背景が白いのは演出です

光り輝く物体がわらわの目の前に！ うお、眩しい！
それより、現れた女の姿には見覚えがあるぞよ、シーツ巻き付けた
だけみたいなのその格好！

5

「愛の女神、バステュース様！」

「戦の女神、バステュース様！」

「恋人たちを引き裂くのが趣味なバステュース女神！」

それは時々しかやりません

きっぱり。

なんじゃ、わらわだけかと思っておれば、他にも二人の人間がぺら
い背景に紛れておったか。

身なりはわらわ同様豪華なドレス、いずれも顔見知りじゃ、隣り合

う国々の姫。

ノーマとアゼリアじゃ。

「久しいの、」

「まあ、御機嫌よう、」

「はにゃ・・・、御機嫌ようですよ、」

お黙りなさい、愚民ども、我を無視するとはいい度胸

「じっ、ごめんなさいですよ、」

「ごめんあそばせ、」

「すまぬの、」

三者三様の侘びがすかさず添えられ、さすがの女神も怒る気が失せたようじゃの。

元から素直に育てられておるアゼリアを除いて、残る二つの侘びに誠意はみじんもないのじゃが。

まあ、良いでしょう。では改めて。

我が声を聞き届けなさい

深き傷を負いし、乙女たちよ

わたしの声が聞こえますか

今まさに、世は乱れ、正義が地に落ちし時

戦の乙女たちよ

我が名の許に、・・・立ちなさい・・・！

「立っておるが。」

「同感。」

「はにゃ？」

というか、目の前の女神の声が聞こえんわけはないし、そも深き傷を負っておるとか誰の事じゃ。

「恐れながら女神様、わたくし達こう見えて少々忙しゅう御座います。」

誠に恐れ多きことながら、貴女様のお暇潰しに付き合うほどの余暇は御座いませんが。」

さすがはノイシュタル国、国王秘蔵の最終兵器と謳われるノーマじや。

女神相手に一步も引かぬか。

聡き姫、お前にとっても損はない

「・・・と、申されますと？」

油断ないノーマの瞳がキラんと光る。

なんじゃ、何かオプシオンでも付くのかや？

お前たち三名には我が力を下賜しましょう

我を楽しま・・・期待に応えてくれると信じますよ

女神は再び輝きを増し、そして・・・わらわの頭上、ノーマの両腕、アゼリアの指が光に包まれ、それぞれに赤き黄金に縁取られた女神の宝具が現れ出たのじゃ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4047t/>

ヒロイックファンタジー

2011年11月14日00時22分発行